受賞者インタビュー

書道部2年坂口さん 文部科学大臣賞

8月5日から16日まで行われた、第21回高校生国際美術展で第2席となる文部科学大臣賞を受賞した、書道部2年の坂口優乃さん(香椎第2中出身)に、作品の解説も含めてインタビューを行った。

―文部科学大臣賞受賞おめでとうございます！

坂口さん(以下敬称略)「ありがとうございます！」

―受賞を伝えられたときはどう思いましたか？

坂口「書道部の終礼の時に先生から発表されて、名前を呼ばれたのに、自分の事じゃないようで理解できず、2～3秒固まってしまいました(笑)」

―受賞作品ですが、これはどういった内容ですか？

坂口「これは篆刻(てんこく)と言って、石印材に篆書(てんしょ)と言う最も古い漢字の字形を刻しているものです。それを今回4顆(か)作りました。1顆は三字句で、残り3顆は四字熟語になっていて将来こうありたいと思う人間像を撰文して、先生に相談し制作しました。」

―制作にあたって、注意していた点や、気を遣った点などはありましたか？

坂口「授業では小さい印材で自分の名前で作るのですが、今回のような大きな印材は初めてで、手も足も出なかったけど、先生に教えてもらいながら作りました。一番注意していたのは、どういった作風を作るか印稿(下書き)を作るのですが、線の向きや形を変えるだけで大きく印象が変わってしまうので、何度も何度も試行錯誤を繰り返しました。」

―受賞時の周囲の反応などはどうでしたか？

坂口「長期に渡る作品制作だったので、それを知ってくれている人たちから『おめでとう』って声をかけてもらえて嬉しかったです。あと、書道がしたくて太宰府高校に入学して、努力をずっと見守ってくれていた母親が、誰よりも喜んでくれました！」

―今後の目標などがあれば教えてください。

坂口「篆刻を平川先生に教えてもらって、『私より上手くなれるといいね』と言ってもらえたのと、自分自身篆刻の制作が楽しくて、普段の書道とは一味違って、こんなに深い分野があると知ることができました。これからは、篆刻を人に教えられるくらいの知識を蓄えて、これからもっともっと成長していきたいです！」

―素晴らしい目標ですね！今日はお忙しい中、ありがとうございました。

坂口「ありがとうございました。」

文部科学大臣賞を受賞した作品と表彰状を持つ坂口さん

文部科学大臣賞を受賞した篆刻4顆。高校生が刻んだとは思えない完成度だ。